

令和 元年 6 月 24 日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2018

課題番号：26770135

研究課題名(和文)数の仕組みとその文法・情報構造との連関の通言語的研究

研究課題名(英文)A cross-linguistic study of number systems and their relationship to grammatical and informational structures

研究代表者

野元 裕樹(Nomoto, Hiroki)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：10589245

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：数の仕組みとその文法・情報構造との連関については、主に、それを研究するためのコーパスへの情報付与を行った。具体的には、マレー語・インドネシア語の大規模ウェブコーパスに形態情報を付与した。
 数の仕組みについては、ベトナム語・日本語・マレー語で類別詞が生起しない環境にある程度の共通点が見られることを確認した。
 文法・情報構造については、マレー語の動作主の異なる受動文の下位タイプその違いが受動動詞句の表す事象の所与性の違いであると主張した。また、古典マレー語・バリ語について、受動文動作主が二度表現される下位タイプは、接語重複であると主張した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

マレー・インドネシア語の大規模コーパスへの形態情報に関連して構築した、コーパス検索システムMALINDO Conclは、研究だけでなく、言語学習にも利用することができる。また、形態情報辞書MALINDO Morphは、マレー・インドネシア語で初めての形態辞書であり、言語ツールの開発に有用である。
 受動文を接語重複として分析する提案はなされていたが、忘れられている。本研究では、その明確な証拠を提示した。

研究成果の概要(英文)：Regarding the relation between number systems and grammatical and informational structure, I annotated Malay/Indonesian corpora with morphological information. The annotations will facilitate the study of the relation.
 Regarding number systems, it was found that the contexts in which classifiers do not occur are largely similar in Vietnamese, Japanese and Malay.
 Regarding grammatical and informational structures, I claimed that different subtypes of Malay passives, which differ in agent expressions, reflect differences in the givenness of the event expressed by the passive verb phrase. Moreover, I argued that the passive subtype in Classical Malay and Baliense in which the agent is expressed twice in a clause is an instance of clitic doubling.

研究分野：言語学

キーワード：態 所与性 情報構造 マレー語 動作主 接語重複 バリ語 コーパス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本語など類別詞を持つ言語の数体系については、これまで積極的に論じられることはなかった。それに対し、私は、マレー語などに見られる、類別詞の随意性と複数標識の存在をもとに、伝統的な単複二項対立に代わる、4 範疇から成る基本的数範疇体系を提唱した。4 範疇とは、単数 [1]、2 種類の一般数 [1 以上]、複数 [2 以上] である。

類別詞言語における複数形については、一部の言語で定性 (definiteness) や特定性 (specificity) に関わることが報告されていた。そのため、英語などにみられる複数形とは異なり、真正の複数形ではないと言われることもあった。

2. 研究の目的

そのような背景を踏まえ、本研究では、以下の3点の解明を目指そうとした。

一部の言語の複数形に見られる特定性に関わる特徴が、類別詞を含む表現にも見られるかを調べ、類別詞を数標示と分析できるかどうかを明らかにする。

「一般数」を表す表現を認定するための通言語的に有効な客観的手順を確立し、一般数に2種類あるのかどうかを明らかにする。

4 範疇仮説に基づき、文法・情報構造に関わる現象を捉え直し、伝統的数体系による記述と説明力を比較する。

3. 研究の方法

研究開始当初は、テキストの分析、聞き取り調査、文献調査、容認度判断実験により上記3つの問題にアプローチする予定であった。本研究では、これらすべての方法をすべて実際に行った。研究段階で、古典マレー語が研究対象に入ったことにより、次第にテキストの分析に重きが置かれるようになった。そして、最終的には現代マレー語でも同様の方法が取れるように、研究資源としてのコーパスおよびその検索システムを整備することに注力することになった。

4. 研究成果

言語学的な研究成果としては、文法・情報構造に関わる現象、特に受動文が中心となる。

(1) マレー語受動文動作主に対する人称制限とその説明

マレー語受動文は、受動態を標示する形態素により2種類に分けられる。すなわち、受動態が明示的標識 *di-* により標示される *di-* 受動文と、そのような標識を持たない裸受動文である。

a. *di-*受動文

Buku itu sudah *di-baca* oleh mereka.
book that PFV PASS-read by 3PL

「その本は彼らによって読まれた。」

b. 裸受動文

Buku itu sudah mereka *baca*.
book that PFV 3PL read

「その本は彼らによって読まれた。」

一般に、*di-*受動文の動作主は1・2人称に限られると言われている。Nomoto and Kartini (2014) では、そのような制限は強い傾向にすぎず、実際には1・2人称の動作主も可能であることを、テキストの分析を通じて示した。さらに、そのような制限は *di-*受動文の動作主が所与性 (givenness)・際立ち (salience) において低くなければならないことによると主張した。発話行為参与者である1・2人称は、常に所与の個体として存在するため、通常文脈では *di-*受動文の要請と相容れないのである。

次に問題となるのは、*di-*受動文がどのように、そのような所与性条件を動作主に課すかである。Nomoto (2015) では、受動標識 *di-* がそれが投射する動詞句の表す事象の所与性が低いことをコード化していることによると主張した。

(2) ハイブリッド型受動文とその受動文一般の分析に対する意義

現代マレー語の *di-*受動文は、動作主の表現法により3つの下位タイプに分けられる。すなわち、動作主が明示されない *pro* 型、動作主が前置詞 *oleh* 「～によって」(英 *by*) によって導入される *oleh* 型、動作主が動詞の直後に生起する *DP* 型である。

a. *Pro* 型

Surat itu sudah *di-poskan pro*.
letter that PFV PASS-post

「その手紙はもう投函された。」

b. *Oleh* 型

Surat itu sudah *di-poskan oleh kerani*.
letter that PFV PASS-post by clerk

「その手紙は事務員によってもう投函された。」

c. DP 型

Surat itu sudah di-poskan kerani.
letter that PFV PASS-post clerk
「その手紙は事務員によってもう投函された。」

古典マレー語では、これらに加え、oleh 型と DP 型が組み合わさった、「ハイブリッド型」が存在することが指摘されていた。ハイブリッド型では、動作主が1つの節内で二度生起する。一つ目は、動詞の直後に3人称の前接語として(=DP型)、二つめは、olehにより導入される前置詞句として(=oleh型)である。

ハイブリッド型(古典マレー語)

maka di-lihat=nya [oleh mereka itu] ...
and PASS-post=3 by 3PL that
「そして、彼らによって...見られた」

ハイブリッド型については、その存在が知られるのみで、その詳細は記述・分析がなされていない。Nomoto (2016)では、その性質を調べ、ハイブリッド型は外項が重複されるような接語重複であると提案した。その理由の1つに動作主の特定性がある。ハイブリッド型 di-受動文の動作主は、他のタイプと異なり、動作主が特定でなければならないのだ。ロマンス諸語などで報告されている、内項の接語重複もこの特徴を持つ。さらに、Nomoto (2018)では、バリ語の-a受動文が、裸受動文のハイブリッド型から生じたという分析を提案した。

ハイブリッド型裸受動文(バリ語)

Nasi-ne ajeng=a [teken anak-e ento].
rice-DEF eat=3 by person-DEF that
「米はあの人が取った。」(Artawa 1998: 10)

古典マレー語とバリ語のハイブリッド型受動文の存在は、以下のような意義がある。一般言語学において、受動文が接語重複として分析されたことがあった(Baker, Johnson and Roberts 1989)。だが、無形の接語を仮定したため、その後あまり顧みられなかった。本研究は、Bakerらの理論的分析が存在すると予測するような形式、すなわち音形を持った接語が関与する事例が少なくとも2例あることを示し、彼らの分析を支持する。

(3) マレー・インドネシア語コーパスの整備

本研究では、マレー・インドネシア語で大規模なテキストを用いた統語論的研究を可能にするためのコーパスの整備も行った。まず、ライプツィヒコーパスのマレー語・インドネシア語データについて、言語分類をやり直し、言語分類の間違いを減らした(Nomoto, Akasegawa and Shiohara 2018)。その後、その再編したコーパスに複数を表す完全重複や態を表す接辞などの情報を付与した。コーパスはオンラインのコーパス検索システム MALINDO Conc から検索できるようにした。

コーパスへの情報付与を行うために、マレー・インドネシア語初となる形態情報辞書も作成した。約23語形について、その形態的構成(接頭辞、接尾辞、周接辞、重複の種類)と出典が記載されている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計8件)

- Nomoto, Hiroki, Shiro Akasegawa and Asako Shiohara. 2018. Reclassification of the Leipzig Corpora Collection for Malay and Indonesian. *NUSA: Linguistic Studies of Languages in and around Indonesia* 65: 47-66. doi 10.15026/92899 査読有
- Nomoto, Hiroki. 2018. The development of the English-type passive in Balinese. In Jozina Vander Klok and Thomas J. Connors (eds.) *Language and Culture on Java and Its Environs*, 122-148. Volume 19(1) of *Wacana: Jurnal Ilmu Pengetahuan Budaya*. Jakarta: Universitas Indonesia. doi 10.17510/wacana.v19i1.620 査読有
- Nomoto, Hiroki, Hannah Choi, David Moeljadi and Francis Bond. 2018. MALINDO Morph: Morphological dictionary and analyser for Malay/Indonesian. In Kiyooki Shirai (ed.) *Proceedings of the LREC 2018 Workshop "The 13th Workshop on Asian Language Resources"*, 36-43. http://lrec-conf.org/workshops/lrec2018/W29/pdf/8_W29.pdf 査読無
- 野元裕樹、アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー. 2017. マレーシア語の取り立て表現と不定表現. 『語学研究所論集 22』 121-131. 東京外国語大学. http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/contents/ronshuu/22/jilr_22_sp_data_malay_nomoto.pdf 査読有
- Nomoto, Hiroki. 2016. Passives and clitic doubling: A view from Classical Malay. In Hiroki Nomoto, Takuya Miyauchi and Asako Shiohara (eds.) *AFLA 23: The Proceedings*

of the 23rd Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association, 179-193. Canberra: Asia-Pacific Linguistics. <http://hdl.handle.net/1885/111479> 査読無

野元裕樹、アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー. 2016. マレーシア語の焦点表現と名詞述語文. 『語学研究所論集 21』. 東京外国語大学. http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/contents/ronshuu/21/jilr_21_sp_data_malay_Nomoto_Abdullah.pdf 査読有

Nomoto, Hiroki. 2015. Person restriction on passive agents in Malay and givenness. *Proceedings of the Second International Workshop on Information Structure of Austronesian Languages*, 83-101. Tokyo: Tokyo University of Foreign Studies. https://publication.aa-ken.jp/proceeding_2IW_IS_Austronesian_2015.pdf 査読無

Nomoto, Hiroki and Kartini Abd. Wahab. 2014. Person restriction on passive agents in Malay: Information structure and syntax. In Siaw-Fong Chung and Hiroki Nomoto (eds.) *Current Trends in Malay Linguistics* (volume 57 of *NUSA: Linguistic Studies of Languages in and around Indonesia*), 31-50. Jakarta and Tokyo: Universitas Katolik Indonesia Atma Jaya and Tokyo University of Foreign Studies. <http://hdl.handle.net/10108/79284> 査読有

〔学会発表〕(計 16 件)

Nomoto, Hiroki. 2019. Anti-classifier contexts. ベトナム社会科学アカデミー言語学院. 2月21日. ベトナム、ハノイ.

野元裕樹、赤瀬川史朗、塩原朝子. 2017. 類似言語におけるウェブコーパス整備: マレー語とインドネシア語の言語判定の事例. 日本言語学会第 154 会大会. 6月24-25日. 首都大学東京.

Nomoto, Hiroki, Shiro Akasegawa and Asako Shiohara. 2018. Building an open online concordancer for Malay/Indonesian. The 22nd International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL). 5月11-12日. 米国、カリフォルニア大学ロサンゼルス校.

Nomoto, Hiroki, Hannah Choi, David Moeljadi, Francis Bond. 2018. MALINDO Morph: Morphological dictionary and analyser for Malay/Indonesian. The 13th Workshop on Asian Language Resources (ALR). 5月7日. フェニックス・シーガイア・コンベンションセンター.

Nomoto, Hiroki. 2018. Variations in Austronesian bare passive agents. *Current Issues in Comparative Syntax: Past, Present, and Future*. 3月1-2日. シンガポール国立大学.

Nomoto, Hiroki. 2017. *Pun* and discourse structure. International Workshop: Varieties of Malayic Languages. 12月19-21日. 東京外国語大学.

Nomoto, Hiroki, Shiro Akasegawa and Asako Shiohara. 2017. Identifikasi bahasa dalam pembinaan korpus web bahasa Melayu/Indonesia [マレー語・インドネシア語ウェブコーパス構築における言語判定]. The 4th Atma Jaya Conference on Corpus Studies (ConCorps 2017). 7月21日. アトマジヤ・インドネシア・カトリック大学.

Nomoto, Hiroki, Shiro Akasegawa and Asako Shiohara. 2017. Reclassifying the Leipzig Corpora Collection for Malay/Indonesian. The 21st International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL). 5月4-6日. マレーシア国民大学ランカウイ研究センター.

Nomoto, Hiroki and Kartini Abd. Wahab. 2016. Tipe pasif di- pada teks klasik Melayu [マレー古典テキストにおける di-受動のタイプ]. Kongres Internasional Masyarakat Linguistik Indonesia (KIMLI) 2016. 8月24-27日. インドネシア、バリ、ウダヤナ大学.

野元裕樹. 2016. 受動文の接語重複分析再考: 古典マレー語の di-受動文. 日本言語学会第 152 回大会. 6月25-26日. 慶應義塾大学.

Nomoto, Hiroki. 2016. Passives and clitic-doubling: A view from Classical Malay. The 23rd Annual Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA). 6月10-12日. 東京外国語大学.

Nomoto, Hiroki. 2015. Pelaku ayat pasif dalam bahasa Melayu Klasik [古典マレー語の受動文動作主]. International Workshop: Current issues in research on languages in Borneo and Malay language. 9月7日. マレーシア、マレーシア・サバ大学.

Nomoto, Hiroki. 2015. A comparative study of the development of the passive in Balinese and Malay. The 10th International Workshop on Theoretical East Asian Linguistics (TEAL). 6月13-14日. 東京外国語大学.

Nomoto, Hiroki. 2015. The development of the passive in Balinese. The Fifth International Symposium on the Languages of Java (ISLOJ). 6月6-7日. インドネシア、インドネシア教育大学.

Nomoto, Hiroki. 2015. Givenness of individuals and eventualities: Perspectives from Malay passives. The Second International Workshop on Information Structure of

Austronesian Languages. 2月11-13日. 東京外国語大学.

野元裕樹. 2014. 容認性判断実験に基づく日本語複数名詞の意味考察. 日本言語学会第148回大会. 6月7-8日. 法政大学.

〔図書〕(計3件)

野元裕樹. 2016. 『ポータブル日マレー英・マレー日英辞典』三修社. 1152ページ.

Nomoto, Hiroki, Takuya Miyauchi and Asako Shiohara. 2016. *AFLA 23: The Proceedings of the 23rd Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association*. Canberra: Asia-Pacific Linguistics. 310ページ. <http://hdl.handle.net/1885/111479>

Chung, Siaw-Fong and Hiroki Nomoto. 2014. *Current Trends in Malay Linguistics*. Jakarta and Tokyo: Universitas Katolik Indonesia Atma Jaya and Tokyo University of Foreign Studies. 121ページ.

<http://www.aa.tufs.ac.jp/en/publications/nusa/back-issue/57>

〔その他〕

マレー・インドネシア語形態情報辞書 MALINDO Morph

https://github.com/matbahasa/MALINDO_Morph

マレー・インドネシア語コーパス検索システム MALINDO Conc

<https://malindo.aa-ken.jp/>

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。